



「第15回 桜蓮祭を終えて」

今回は、平成28年11月5日に第15回桜蓮祭を開催しました。本年度のスローガンは「百花斉放～絆の花を咲かせよう～」とし、日ごろの勉強やサークル活動の成果を地域の方々に見てもらおうと様々な企画を行い各学生団体や教員と共に準備し実施しました。その背景には、今回スポンサーとなっていただいた37社の企業の方々や、後援会の皆様からのご協力などがあり、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

桜蓮祭の前日から晴れ間がみえ、当日には雲がほとんどないくらい晴れ、700人近い方からお越しいただきました。

当大学ならではの企画として、災害看護サークルによるハンドマッサージ、4年生による自分の骨密度などがわかるハカレンジャー、教員による乳がん子宮がん自己検診教室、ふれあい実習のポスターの展示、謙信公祭でも披露した野村ゼミによるほら貝体験や当大学を卒業した教員を中心に15年の歴史を振り返る展示などが行われました。少しでも地域の皆様方に学生が学んでいること、頑張っていることを知っていただけたらうれしく思います。さらに今年は、ヒグチアイさん、UNFALLさん

そしてフレアバーテンダーの KEIGO さんをお招きしました。素晴らしい歌声、演奏、パフォーマンスを披露してくださいました。また、毎年行っている献血に加え、骨髄バンクのドナー登録の受け付けも行いました。19名の方がドナー登録をしてくださりました。ありがとうございました。そのほかにもバンド、エアロビ、ダンス、よさこい、合唱サークルなどによるライブが行われ、多くの方々が見物されていました。ほかのサークルや外部の企業の方々も様々な食べ物の飲み物を販売し、活気のある桜蓮祭になりました。そして、今年も事務の方が模擬店を企画してくださり、長蛇の列ができていました。

特に大きな問題もなく、予定通りすべての企画が行われ、無事に終わることができ、安心しております。ですが、反省することも多々あるため、来場者の皆様方に書いていただいたアンケートなどを活用し、来年度はより素晴らしい桜蓮祭になるように引き継いでいきたいと思っております。来場してくださった方々、協力してくださった方々ほんとうにありがとうございました。是非、来年も桜蓮祭にお越しください。心よりお待ちしております。

もくじ

- 1 第15回 桜蓮祭を終えて
- 2 謙信公祭に参加して
- 3 新任教員紹介
図書館のちからプロジェクト
- 4 継燈式について
オープンキャンパス報告

- 5 看護実習の報告
- 6 サークル紹介
バンドサークル
エアロビサークル
広告研究サークル
47都道府県温泉サークル

- 7 高田祇園まつり
国営越後丘陵公園
リレーマラソンに参加して
- 8 いきいきサロン
編集後記

謙信公祭に 参加して



私は野村ゼミで地域の伝統芸能のことを学んだり、三線を使って演奏をしたりしてきました。伝統の芸能に触れることで、その地域の歴史や魅力を知ることができます。だから、私は野村先生のゼミを受講したのですが、まさか法螺貝を吹く機会を得られるとは思っていませんでした。時代劇でしか見たことのないような法螺貝を間近で見るのも勿論初めてでした。

この法螺貝の発表・地域交流の場となったのは、上越市に誇る祭りのひとつでもある謙信公祭でした。私は名前だけは知っていましたが、具体的にどのようなことをする祭りで、どれだけの人が来るのかは知りませんでした。調べてみると、毎年大勢の方たちが各地から参加したり、観光に来たりと、大規模な祭りであることを知りました。この祭りで長い行列を作って、法螺貝を鳴らしながら街中を練り歩く自分の姿を想像したとき、うまくいかどうか少し不安になりました。しかし参加を決めたからには、まずは吹けるように練習しなければなりません。私たちは法螺貝を、各地の祭りやイベントなどで法螺貝を吹いている白山龍鳴会の方たちからお借りして練習しました。法螺貝を支えるための紐を首にかけ、いざ吹こうとしたとき、最初は音が出ませんでした。唇を振動させて、息を吹き込む動作が難しく、うまく鳴らせませんでした。しかし白山龍鳴



会の方たちが、息をしっかりと法螺貝に入れるコツや、正しい姿勢を丁寧に教えてくださったおかげで音を鳴らせることができました。そこから、乙音という低い音や、甲音という高い音を歩きながらも息をしっかりと入れて法螺貝を吹けるように、全体でも隊列を作って合わせる練習を休日にも行ったりしました。お互いにアドバイスをし合いながら楽しく法螺貝の練習をしました。

本番当日は、衣装を身に纏い、2キロメートル程の距離をゆっくりと時間をかけて、歩きながら法螺貝を吹きました。その際に街道にいた人たちが笑顔で手を振ってくださったり、「頑張れ」と声をかけてくださいました。この謙信公祭を通して、地域の人たちの温かさや、この謙信公祭を大事に思っていることを感じ取りました。

伝統的に行われてきた謙信公祭をこれからも繋げていき、その魅力をもっと多くの人に知ってもらいたいと思いました。

2016年度の謙信公祭にゼミナールの学生とともに参加しましたのでご報告いたします。今年度、私のゼミナールでは「法螺貝を吹く」というのをテーマに掲げました。法螺貝を吹きこなせるようになって、謙信公祭に出ようというのです。

そこで、4月から、愛知県の法螺貝愛好団体である「白山龍鳴会」の絶大な協力を得て、練習を重ね、自信をもって本番に臨みました。

祭りの当日は、大通りを行進しつつ、「ぶおお〜」と法螺貝を吹き鳴らすことができました。市内の行進だけではなく、その後の川中島合戦にも参加して、法螺貝によって武将隊の士気を高めました。おかげで、他の参加者からの評判も良く、たいへん満足できる結果となりました。

もっとも、私は貝役(法螺貝を吹く役目の長)でしたので、威厳を保つために、非常に重たい鎧を着て、さらに陣羽織を羽織らねばならず、日射病で意識がもうろうとなるぐらい疲労しましたが(写真をご覧ください、学生諸君はスマートな衣装です)、市民からの反応も上々でした。行進中、沿道から、「あ、ほらガールだ」、「法螺貝、吹いて！」など、たくさんの声援がありました。学生諸君にとっても、いい思い出となったことでしょう。



今回の企画は珍しいこともあり、マスコミの取材が多くありました。BSN新潟放送は2回にわたり、特集まで組んでくださいました。JCVも何度も放送してくださいました。上越タイムス、上越よみうり、新潟日報、朝日新聞にも載りました。他にも、今年度のオープンキャンパスに来てくれた高校生の中には、「入学したら、ほらガールに入りたい」という人までいて、人気の高さに驚きです。こんなに大きな反響は、マスコミにも高校生にも、ひたすら努力しつづけたゼミ生諸君の輝かしい姿が魅力的に映ったからなのでしょう。

私のゼミ生の正式名称である「ほらガール&ボーイ」は、さらに進化して、来年度も謙信公祭に出陣予定です。どうぞご期待ください。

新任教員
紹介



10月1日付けで着任いたしました西田絵美と申します。生まれ育ちも大阪の関西人です。青年期までを大阪で過ごした後、奈良県に移住し30年近く暮らしていましたが、今回初めて関西を出て新潟県にやって参りました。これまでの人生において新潟との接点は全くなく、あらためて人生やご縁の不可思議さと素晴らしさを感じております。

私の専門領域は、母性看護学と助産学です。助産師として、大学病院、産科医院、助産院などでの勤務経験があります。この臨床経験は今の私を形づくっている原点であり、かけがえのないものです。この経験がなければ、おそらく教員にはなっていなかったと思うからです。数多くの妊産婦さんたちとの出会いによって様々なことを学ばせていただき、助産師である私が形成

されたといっても過言ではありません。時には悩み苦しみ、失敗や挫折を繰り返しながらも、助産師という職業の奥深さとやりがいを体験してまいりました。同時に、看護には社会を変えていけるだけの大きな力があることも確信してきました。その後、「助産や母性看護の楽しさを、看護師をめざす人たちに伝えたい」という思いから教員になり、今年で16年目になります。

教員になってまず感じたことは、「自分が知っている」とことそれを「人に教える」ことは全く次元が異なるということでした。教えるには、自分なりの哲学が必要であり、教育の方法についても吟味していくことが重要です。教育に関する知識がなければ自分の経験は伝えられないと思い、教育学の学習をはじめて現在に至ります。

私の座右の銘は「継続は力なり」です。ありきたりの言葉ですが、目の前のことに精一杯取り組むことこそが、自己成長の第一歩であり、さらなる局面に立ち向かうための原動力になると信じています。これからもこの姿勢を継続し、新潟県立看護大学の発展に貢献できるよう努力してまいりますので、どうぞよろしく願いいたします。



【新入生歓迎イベントの様子】

図書館のちからプロジェクト (ご紹介)

図書館のちから
プロジェクト
(ご紹介)

図書委員会では平成27年度より、『図書館のちからプロジェクト』を開始し、学生の図書館利用促進に取り組んでいます。毎月の図書館利用者統計から捉えた学生の利用状況として、3年生は演習や実習の時期、4年生は看護研究や国家試験の自己学習の時期にかけて大いに利用していることが分かりました。他学年にはこのような“学習の山場”といった特徴はありませんが、どの学年も学習課題に応じた継続的な図書館資料の利用が望まれます。本学図書館は、看護大学の図書館として、看護や疾患にかかわる書籍の他、患者理解につながる体験記を多く揃えており、学生の学習に大きく貢献しています。こうした蔵書の特徴を活かし、かつさらに学習に貢献するため、『図書館のちからプロジェクト』を始動しました。ここに具体的なプロジェクトをいくつかご紹介いたします。

1つは、学生を図書館に誘う新入生歓迎イベントです。このイベントは特に初年次教育の重要性から、1年生の利用促進を図るために企画しました。入学して間もない時期の昼休みの時間を活用し、教員おススメの本や看護学生向けの雑誌の紹介を行いました。教員おススメの本は患者体験記や看護職に関する書

籍の紹介、他県出身者向けに地元情報誌の紹介を組み込んでいます。平成27年度は5名が、平成28年度は11名の参加がありました。

もう1つは、ブックハンティングです。これは、学生自身が書店に赴き選んだ本を実際に図書館に置く試みです。平成28年度は6月17日に院生1名を含む4名の学生が参加し、合計35冊の書籍を図書館に所蔵しました。選んだ理由や是非読んでほしいメッセージを学生自らポップを作成して紹介しました。

『図書館のちからプロジェクト』を通して、1人でも多くの学生が書籍に触れ、対象(患者)理解という側面から、学生が看護職として社会に出るための基礎作りに貢献してくれることを願っております。



【ブックハンティングの様子】



【学生手作りのポップ】

継燈式について

先輩、後輩、教職員の皆さまの多大なるご協力のもと、無事に平成28年度継燈式を終えることが出来ました。昨年の暮より実行委員会を立ち上げ学年一丸となって準備を進めていました。最初の時期は実行委員が主体となって活動しました。入退場の曲や式当日につけるコサージュなど小さなことについてもアンケートを取るなど学年全体が継燈式をどのようなものにしたいのか、かつ、より良いものとするためそれぞれが事細かに意見を出し合いました。このような活動が委員会の人だけが動くのではなく、一人一人が主役となって式を成し遂げるという意識を生み出すことができたのではないかと思います。継燈式の時期が近づくとう授業の合間を縫いながら練習を行い継燈式に対してのイメージを少しずつつけていきました。前日のリハーサルも例年とはスケジュールが多少異なり、夕方を過ぎる時間帯まで練習



習を行いました。リハーサルの最後まで緊張感と集中力を持ちながら練習・準備を行っていたのを覚えています。全員で手を取り合い、また主体的に取り組むことができたからこそ、あの素晴らしい継燈式を実現することができたのだと思います。

今思い起こせば自分一人だけでは出来なかったことや至らないことが多々あり、先輩、後輩、教職員の皆さま、そして同じ学年の仲間たちの支えがあったからこそこの継燈式実行委員長という大役をどうにかやり遂げることができました。改めて感謝申し上げます。

この継燈式は私たちにとって、看護師を目指す道のりの更なる歩みであると位置付けております。これまで培ってきた基礎を忘れることなく、気持ちを引き締め、一人ひとりが目指す理想へ到達できるようこれからの学習に臨んで参ります。継燈式で誓った決意を忘れることなく、より一層精進しますので、どうか変わらぬご支援をお願いいたします。

8/5(金)と8/22(月)にオープンキャンパスを開催、2日間あわせて693名の方からご参加いただきました。今回は「体験学習あり」「体験学習なし」2つのコースを実施し、様々な視点から新潟県立看護大学を体感していただきました。

オープンキャンパス 報告



全体説明の様子
(両コース共通)

学長の挨拶、学部長からのメッセージの他、大学や入試の概要、取得できる資格等について説明しました。さらには、本学卒業生が未来の後輩たちへ熱いエールを送りました。



介護リフトを用いたベッドから
車いすへの移乗の様子
(体験学習ありコース)

2日間で体験講義を4種類、体験演習で7種類を実施。ひとくちに「看護」といっても様々な分野があることを知っていただく機会となりました。



昼休みの様子
(両コース共通)

当日は学食やレセプションホールで「イチおしかレー」を頼る参加者で満席に。「少し辛かったけどおいしかった」と好評でした。

ふれあい実習を終えて



私たち1年生は10月上旬の3日間新潟県A市のB地区、C地区、D地区を訪問し、ふれあい実習を行いました。私たちのグループは、B地区に訪問させていただきました。私たちのグループでは事前学習でB地区の文化に重点を置いて、そこから見える地域の人々の暮らしについて考えることを目標に取り組みました。

B地区の文化について特に春駒という伝統芸能について地域の方に直接教えてもらい体験させていただき、お話を伺いました。そこでは、行う人の高齢化、後継者不足などの問題を抱えていました。これらはB地区全体の問題であり、ほかに地域住民の減少、人間関係の希薄化などの問題がありました。それらを解決するためB地区では交流人口の増加を目的とした民泊事業や、地域交流の活性化を目的とした地域活性活動を行っていました。

民泊事業では台湾、フィリピンなどアジア諸国の民泊を受け入れ、異文化交流に力を入れています。また豊かな自然に囲まれた地域の特



性を生かして、関東圏などの自然にあまりなじみのない小学生を受け入れる取り組みも行っていました。地域活性活動ではクラフト教室やヨガ教室など地域の方同士の交流を中心とした取り組みを定期的に行っています。クラフト教室のストラップづくりも実際に体験させていただきました。

お話を伺う中で地域の方々のB地区を良くしていこうという前向きな気持ちや強い想いを感じることができ、それによっていきいきとした生活を送っていることが、活気がある地域であり続けることに繋がっているのだと考えました。また自分から積極的に地域のために行動を始めようと尽力する姿は、見習っていきべきだと感じました。

実習では、様々な場面で地域の方の優しさに触れることができ貴重な経験をさせていただきました。暖かく迎えてくださったB地区の方々に感謝し、実習で学んだ地域の結びつきや大切さを今後の学習に生かしていきたいと思えます。

基礎看護学実習Ⅱを終えて



私たち2年生は今回の基礎看護学実習Ⅱで初めて患者さんを受け持たせていただきました。病棟での5日間の実習では、患者さんとお話しさせていただいた内容や看護師さんの患者さんとの関わり方や看護の行い方、看護師さんからのアドバイス、看護計画を立て実施させて頂いたことなど、これらの一つ一つがわたしにとってとても勉強になりました。

まず、実習に出て強く感じたことのひとつが、学内演習と実際の現場の違いです。バイタルサインの測定や体位変換など、学校では、健康で歳の近い学生同士で行っていましたが、年齢や体型もそれぞれで怪我や疾患を持っている場所も異なる患者さんで実施させていただいたことで、より工夫や技術が必要なことや、それぞれの患者さんによって気をつけるべき点などがあることを強く感じました。

しかし、実習は学校で学んだ内容を自分なりに活かすことのできる貴重な機会でもありました。看護計画を立てる際にまず電子カルテなどからできる限りの情報を集めました。今現在の患者さんの本当の

情報は患者さん自身からしか得ることができないということを実感しました。その時に大切だと感じたのがコミュニケーションです。講義で学んだコミュニケーション技法に加え、徐々に得ることができる患者さんの個性に合わせた会話の仕方、少しずつ信頼していただけていることを実感できたことがとても大きな成長でした。会話から得た情報に不必要な部分は一切なく、目線や表情などの全てからその患者さんについて理解していくことで、看護に個別性を取り入れることができるのだと身を持って感じました。

わたしは今回の実習で、先生方や現役の看護師さんから聞いていた「私たちが、患者さんから助けられることがある」という言葉を自分自身で初めて体験することができました。はじめは緊張と不安ばかりでしたが、患者さんと関わらせていただくことでやりがい生まれ、力になりたいという気持ちが強くなりました。この気持ちや今回自分を知識不足と感じた体験を忘れることなく、今後の学内での学習や来年の実習へ向けての糧にしていきます。

総合実習を終えて



私は総合実習で基礎看護学コースを選択しました。私が基礎看護学を選んだ理由は4年間の集大成として改めて科学的・理論的根拠に基づいて看護を展開したいと考えたからです。基礎看護学ではチーム医療やリーダーシップとメンバーシップについて学び、科学的・理論的根拠のある看護を通して、「看護」について改めて考える機会となりました。

私は今回ペプロウの人間関係論をもとに看護を展開しました。私がこの理論を用いたのは、患者さんと初日に話したときにコミュニケーションが上手く取れず、関係性の構築に悩んだからです。ペプロウの理論では看護を人間関係のプロセスであると述べています。ペプロウの人間関係論を少し紹介すると、初日はお互いに「未知の人」であり緊張状態であると言えます。この「未知の人」の段階では患者のあるがままを受け入れ、偏見を持たずに接することが必要であるとされています。そのため、私は患者さんに積極的に話しかけるのではなく、相手の

ペースに合わせて会話をするようにしました。すると、少しずつ患者さんが私に気持ちを表出したり、頼み事をしたりするようになりました。このような患者さんの変化を捉えながら、今私と患者さんはどの段階にいるのかを考え、その段階に応じたかわりを行っていきました。その結果、患者さんと同じ段階を共有しながら一緒に健康問題に取り組むことができました。

総合実習では4年間で学んだことを活かすことができ、大学入学当初の自分と比較して、大きく成長できたと実感できました。私は総合実習を通して看護とは「患者とともにある」ものだと考えました。実習では多くの学びがあり、指導して下さった先生や臨床指導者さんをはじめ、受け持ちを引き受けて下さった患者さんに大変感謝しています。この学びを活かし、卒業後も患者さんとともにある看護をしていきたいです。

サークル紹介

こんにちは!バンドサークルです。私たち新潟県立看護大学のバンドサークルは、1年生9名、2年生10名、3年生8名、4年生5名の計32名で仲良く活動しています。主な活動内容として、新入生歓迎ライブ、桜蓮祭ライブ、卒業ライブの3回のライブがあります。メンバーで協力して絆を得たり、観客も巻き込んだ1つの空間を作り出したりすることを目的として行なっています。中でも桜蓮祭では、学生のみならず一般の方にも気軽に足を運んでいただき、その場にいる全員が一体となって盛り上がります。練習は、月曜日から金曜日までの講義がない時間や、土曜日の16時までの時間などをうまく利用し、各バンドで集まって行っています。また、長期休みや本番前は、大学近くにあるスタジオで練習を行うこともあります。

これらの他、このサークルでは楽しいことがまだたくさんあります。今後も今まで通り楽しいサークル活動を続けていきたいと思っています。

バンドサークル



私たちエアロビクスサークルは現在4年生8名、3年生6名、2年生7名、1年生11名で活動しています。主な活動日は毎週水曜日ですが、桜蓮祭の発表に向けて夏休み後は各チームが毎日のように練習に励んでいました。毎年新入生歓迎会と桜蓮祭が主な発表の場になっていますが、地域行事での出し物に参加させてもらったこともあります。私たちはこのようにして行事を盛り上げ、たくさんの人に楽しんでもらえるようにと活動を続けています。また行事への参加だけでなく、はじめは学校生活の中に運動の機会を取り入れることをきっかけに参加するメンバーも多いようです。きっかけは様々ですが、最高の演技をするため練習を続けるうちに全学年が力を合わせるようになり、最後には大きな達成感をメンバー全員が感じることができ、その瞬間を目指して私たちはこれからも笑顔で踊ります。エアロビクス初心者だけで構成されるこのサークルで、一緒に楽しく踊ってみませんか。

エアロビクスサークル



このサークルは活気ある大学にするために結成されたサークルです。活動内容としては、主に、大学のPR活動と募金活動としていますが・・・正直な話、企画によって学内の学生が何かに対して「やりがい」「楽しさ」を感じてくれたらいいなと思っています。

去年の活動としては、桜蓮祭で第二回Miss NCN CONTEST2015を開催しました。

今年は、看護師・保健師・助産師を目指すことができるこの医療系の大学として、医療に関する活動をしようということで、「みんなでエコキャップ～世界の子供たちにワクチンを～」という活動を行っています。活動内容は、ペットボトルのキャップを大学内で集め、リサイクルで換金された資金でポリオワクチンを買い、発展途上国の子供たちに届ける活動です。

新潟県立看護大学に入学して、一緒に楽しくこの大学を盛り上げませんか?広告研究サークルへの参加、お待ちしております。

広告研究サークル



去年のミスコンの様子

新潟県立看護大学の47都道府県温泉サークルです。私たちは、温泉が好きな学生が集まり、心身のリフレッシュや、多学年との交流をはかることを目的とし、不定期で活動しています。具体的な活動として、昨年には群馬県にある伊香保温泉に行ってきました!大衆浴場や露天風呂など味のある温泉で大満足でした。そして、女子といえば、甘いもの!温泉から上がってから食べた名物のプリンは最高でした。そして今年は、新潟市にある月岡温泉に行ってきました!少人数での活動でしたが、温泉街を周り、高級旅館の温泉に浸かったり、とても充実した活動となりました。温泉サークルの活動では、裸の付き合いという言葉もあるように、やはり、学年関係なく学生同士の交流が円滑になっていると感じています。また、個人で行くよりも低費用で温泉を楽しむことができます。それらがこの47都道府県温泉サークルの魅力だと感じています。昨年、今年ともに1回のみでの活動でしたが、今後は活動回数を増やしていきたいと考えています。

47都道府県温泉サークル





“Minyo Nagashi” Traditional Folk Dancing



Every year, around July 25th, there is a wonderful chance for the people of Joetsu to experience the joy of traditional folk dance. “Minyo Nagashi” is one of the main events of the annual Joetsu Festival. Companies, schools, organizations and community groups all come together to dance along Takada’s Honcho Street, dressed in a variety of colourful Yukata and Happi coats. The usually quiet street becomes a center for the community, a place where people laugh, and dance and celebrate life in Joetsu. More than two thousand people, young and old, dance up and down the street to the sound of three traditional songs that reflect the culture and history of Joetsu. It is a joyous atmosphere.

Niigata College of Nursing is always well represented at the Minyo Nagashi event. This year, around 100 students and faculty joined the celebrations. All of us had fun, and all of us had smiles; so did the people who saw our happy dancing.



国営越後丘陵公園 リレーマラソンに参加して

5月22日、国営越後丘陵公園で行われたリレーマラソンに1～3年生計10人でチームを構成し、新潟県立看護大girlsとして参加してきました。この大会は1周2kmのコースを周回で走って襷をつなぎ42.195 kmを完走するというものです。去年、陸上サークルの先輩方に誘っていただいて参加し、とても楽しかったので今年も出られたらいいなと思ったのがきっかけです。当日はとても暑い日でしたが、風もなく絶好のレース日和でした。走る前は“順位を気にせず、時間内のゴールを目指して頑張ろう”、と楽しく走ることを目標としていました。しかし、途中経過で順位を確認してみたところ、思いの外上位にいたため、これは入賞を狙えるのではないかという雰囲気が出ました。そして“楽しく走りながらも、もう少し頑張ってみる”という目標に変更することにしました。起伏の多いコースなので途中ペースを落とすときもありましたが、次に待っている仲間やチームメンバーのことを考え走り続けました。結果は323チーム中総合120位、女子部門2位でゴールすることが出来ました！去年のタイムを上回ることもでき、とても嬉しかったです。大学からは他にも男女混合チームや教員・事務チームも参加していたので、互いに応援し、競い合いながら楽しくレースが出来たと思います。全員でゴールテープを切った瞬間は今までの疲れが帳



国営越後丘陵公園
リレーマラソンに
参加して



消しになるくらい最高に気持ち良かったです。仲間と1つのことをやり遂げる楽しさ、達成感を味わうことができ、参加して本当によかったなと思います。

また、今回参加するにあたって事務の方からテントの設営や栄養・水分補給の準備などたくさんの協力を頂きました。全員が怪我なく無事に終わられたのは皆さんの協力があったことです。本当にありがとうございました。

来年もぜひ参加したいと思っているので、興味のある方、ぜひ楽しく襷をつなぎましょう。来年は女子部門1位を目指して頑張ります。



健康に関心のある地域の皆様と、看護や健康などの専門家との交流の場として開催している「いいききサロン」は、平成21年9月に初めての「いいききサロン」を開催してからこれまでに計60回開催し、延べ4,700名以上の方にご参加いただきました。

「いいききサロン」では、お茶を飲みながらの和やかな雰囲気の中で、地域のホームドクターや保健医療福祉などの専門家もしくは看護大教員が健康に関する話題提供を行いながら、地域の皆様と交流することを目指しています。

ちなみに今年度は、計6回開催し、その内容は、『歯を「なおす」から「まもる」へ』、『認知症予防につながる脳トレ法』、『薬剤師が本音で語る薬の功罪』、『人と人とのつながりがみんなを元気に』、『見て学ぼう、皮膚の病気～』、『ストレス～「スタンフォード」のストレスを力に変える教科書の紹介～』と多方面にわたるものでした。各回の参加者数も98～170名と大変多く、看護大の「いいききサロン」が地域の皆様にだんだんと周知されてきていることを感じます。また、ご参加いただいた方々からは、「このような活動をずっと続けてほしい」、「また参加したい」、「こんなテーマでもやってほしい」など、たくさんのお声をいただいております。



次年度は、8月を除く5月から11月にかけて、毎月1回、計6回の開催を予定しています。開催日は、いずれも木曜日の午後6時30分から7時30分までで、会場は新潟県立看護大学です。事前申し込みは必要ありません。参加費は無料です。内容や開催日などの詳細は、4月上旬に看護大の看護研究交流センターのホームページでご案内するとともに、新聞広告などでも随時お知らせしていく予定です。

これからも「いいききサロン」は、皆様のご要望や健康に関する世の中の動きなどを参考にしながら、皆様がいいききと生活していくことを応援するテーマを準備して参ります。

ぜひお気軽にご参加ください。



新潟県立看護大学
Niigata College of Nursing

〒943-0147 新潟県上越市新南町240番地
Tel 025-526-2811 Fax 025-526-2815
E-mail soumu@niigata-cn.ac.jp

編集
後記

夏の謙信公祭や秋の大学祭、サークル活動など学生の活動を中心にお届けします。地域の皆様に学生の活動などを知っていただければ幸いです。また図書館の活動なども掲載しました。大学の取り組みにもご注目ください。

入試・広報委員：川島良子・石岡幸恵

